

今月のトピックス 「トマトサビダニについて」

1 トマトサビダニとは

トマトサビダニはフシダニ科に属し、雌成虫の体長が 0.15～0.20mm と非常に小さい害虫です(写真 1)。ダニ自体を肉眼で見つけるのは困難なため、被害が大きくなるまで発生に気づかないことがあります。



写真 1. トマトサビダニ

(独野菜茶業研究所・北村登史雄氏原図)

2 トマト・ミニトマトでの被害について

その名のとおりトマトやミニトマトが好適な餌植物で、大きな被害を与えます。被害は以下のような特徴があります。

- ・葉が黄化・褐変し、症状は徐々に上部へ広がっていきます。
- ・被害が進むと初期の加害葉は枯れ上がり、茎も褐変します(写真 2)。
- ・多発すると果実も加害され、褐変してサメ肌状となり、肥大しなくなってしまう(写真 3)。

その他の植物では、ジャガイモ、ナス、ペチュニア、イヌホウズキなどでも増殖しますが、被害はほとんどありません。



写真 2. 葉や茎の褐変被害

(中央農業改良普及センター・山田信二氏原図)

3 驚異的な増殖力！

増殖力が非常に高いため、短期間で高密度になります。最適温度は 25℃ で、約 5 日

で卵から成虫まで発育します。また、産卵数は乾燥条件で多くなる(相対湿度 30% が最適)ので、施設栽培では爆発的に増殖し、みるみるうちに被害が広がってしまうことがあります。



写真 3. 果実の被害

(中央農業改良普及センター・山田信二氏原図)

4 防除のポイント

増殖力が高いため、とりわけ「早期発見・早期防除」が重要な害虫です。しかし、肉眼でダニを確認困難なため、何らかの病害と勘違いしてしまうことがあります。トマトサビダニによる被害かどうか、ルーペ等を使って以下のように確認してください。

- ・疑わしい症状の葉などを観察すると、トマトサビダニが原因であれば淡黄色～橙色の小さなダニがたくさん見つかります(写真 4)。
- ・葉が褐変している場合は、その少し上位の葉に多数寄生しています。
- ・圃場内での初発場所は不規則なので、トマトをよく観察して被害症状を目安にしてください。



写真 4. 葉に多数寄生しているトマトサビダニ

一度発生した圃場では、その後も発生が続く傾向があるので、圃場のどこかで生きながらえていると思われますが、詳しい生態はわかりません。なお、防除薬剤は登録内容をよく確認して使用してください。